

知床の利用のあり方について

1. 知床の利用に関する検討の進め方

(1) 個別具体的な新たな利用やそのルールに関する検討

- ・従前同様、エコツーリズム戦略に則って、検討会議での提案及び承認の仕組みを活用して検討する（提案内容は、各種法令や管理計画等と齟齬が生じないよう調整が必要）。

例）赤岩昆布ツアー

※提案及び承認の仕組みがより円滑に機能するように、知床エコツーリズム戦略の運用見直し（提案者の負担を軽減する方策等）も検討する。

(2) 個別具体的な利用ではなく、知床全体の利用やその管理の方針の検討

- ・平成29-30年度の懇談会の結果、地域関係者が目指したい知床の将来像として「ゾーニングイメージ案」が示されている。
- ・「ゾーニングイメージ案」の理念と方向性は、地域の意見として尊重し、遺産地域管理者及び地元自治体の行政計画において、次期見直し時の検討材料とする。

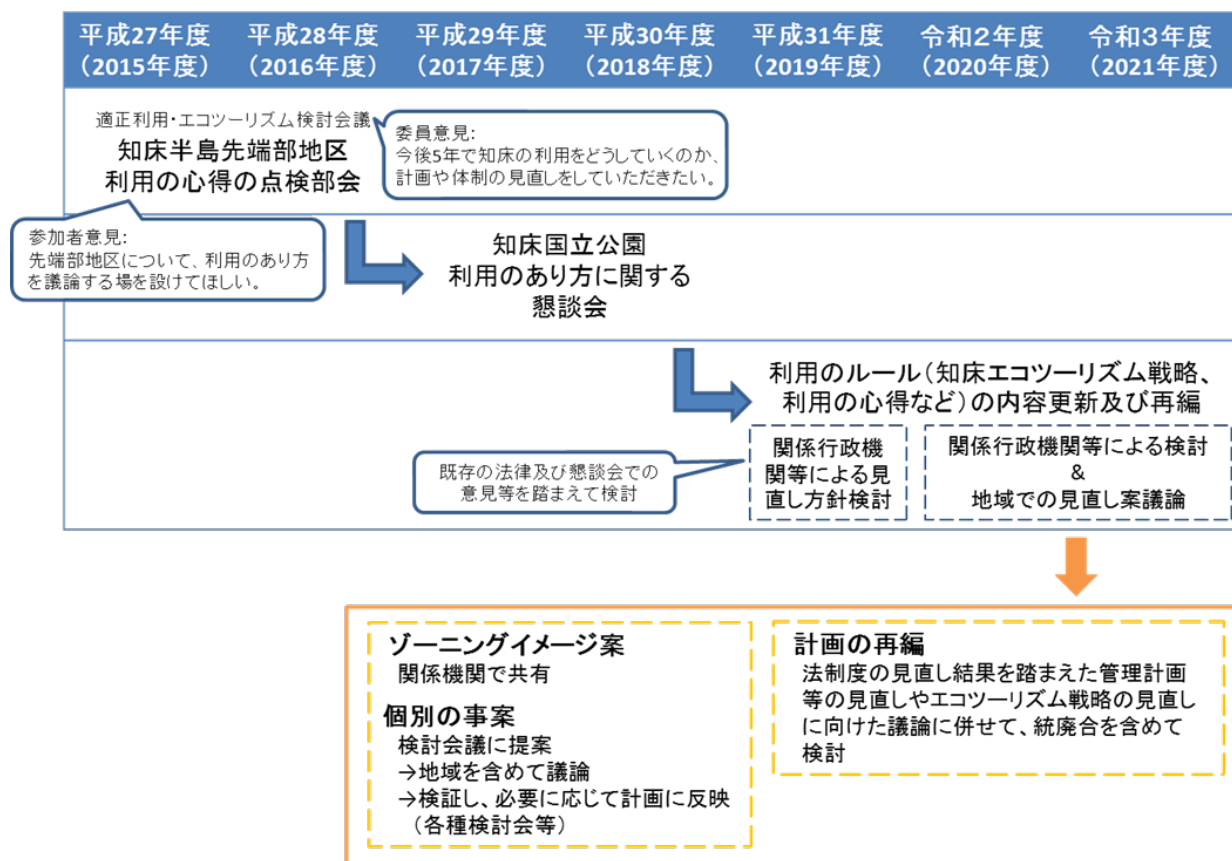


図 知床の利用のあり方に関するこれまでの検討の流れ

2. 知床全体の利用やその管理に係る今後の検討方針

(1) 知床国立公園

①自然公園法の改正について

令和3年4月、自然公園法の改正法案が成立（令和4年4月1日施行）。

- ・地域の魅力を活かした自然体験活動を促進する「自然体験活動促進計画制度」を創設
- ・魅力的な滞在環境を整備する「利用拠点整備改善計画制度」を創設
- ・公園の保護と適正利用のために餌付けへの規制や違反行為への罰則を強化

②公園計画への反映

改正自然公園法に基づき、「ゾーニングイメージ案」を踏まえた内容について、公園計画への反映も含めて検討する。

また、地域の実情に即した国立公園管理業務の指針となる「国立公園管理運営計画」についても、公園計画の変更に併せて変更を検討する。

<作業スケジュール（想定）>

令和3年度中 公園計画の変更に必要となる既存の利用情報収集・整理等を実施

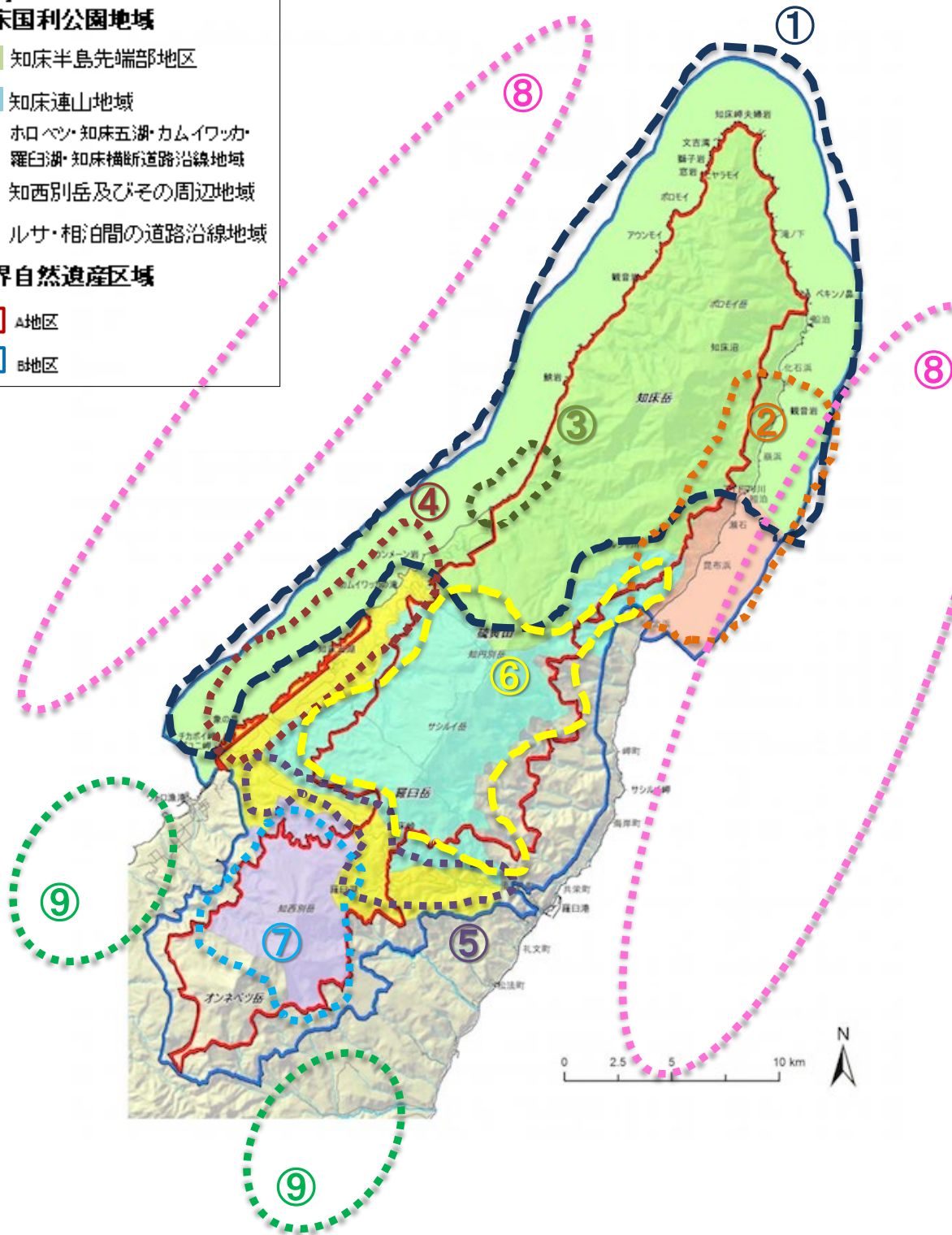
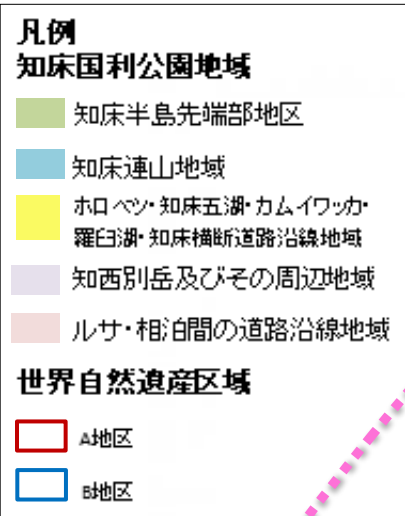
令和4年度～ 公園計画の変更に係る具体的な検討に着手

→地域の関係者や行政機関との意見調整、パブコメ、中央環境審議会への諮問、関係省庁協議等を経て、変更作業完了。

(2) 知床国立公園外

「ゾーニングイメージ案」は、国立公園外も対象とされている。よって、国立公園外においても、関係行政機関による各種管理計画等の次期見直しにあたり、「ゾーニングイメージ案」をその検討材料とする。

2017年～2018年度開催「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」 資料：ゾーニングとイメージ(案) より抜粋



①先端部地区全域（冒険と原生の旅）

容易にアクセスできるフィールドでのアクティビティやスポーツ的登山、トレッキングとは一線を画した「冒険と原生の旅」。ヒグマとの出会いや険しい地形、荒れる海のリスクを乗り越えて、野営しながらたどり着く感動の到達感、日本離れた大風景と非日常の秘境感を提供することに特化する。旅の過程で、豊かな海を糧に生きる人々との出会いや交流も大切な思い出となる。

②羅臼側先端部海岸線ルサ～観音岩（番屋の営み、フィッシャリーターリズム）

羅臼の豊かな海を糧に、「番屋」という知床ならではの営みの場における暮らしを積極的に発信。浜に根ざして生きる人々との出会いや交流も重要な体験要素とする。

③先端部地区ルシャ（知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング）

サケマスの遡上・産卵とヒグマや猛禽類などの捕食による陸と海の繋がり、世界遺産の核心を学ぶ。圧倒的なヒグマ体験。全国で爆発するクマ問題への普及啓発の場、人々を思考停止にしている恐怖の猛獣という誤解を解き、自然な生き様を知る場とする。共存の道を模索するきっかけ作りの場とする。

④ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ（多様な知床体験ニーズに応える）

観光バスやシャトルバスを利用した周遊観光から、比較的手軽なバックカントリー利用まで多様なニーズに応えることができる地域として活用していく。陳腐化させることなく他と差別化した知床独自の体験を提供する工夫、ヒグマ等との軋轢回避対策が求められる。

⑤羅臼湖・横断道路沿線地域（知床峠の景観を楽しむ手軽な周遊観光と羅臼湖での奥知床体験）

車両を利用した周遊観光から、2時間程度で比較的手軽な高山バックカントリー体験が可能な羅臼湖、深い森を味わうことができるボンホロ沼などを楽しむ。

⑥知床連山地域（知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場）

海にそそり立つ連山の稜線に到達する満足感。眼下の両側は海、はるか国後島・エトロフ島までの眺望は、他では得がたい感動を得ることができる。広大なハイマツ帯や雪田群落の高山植物も知床の山の魅力である。基本的に中級以上の登山者を対象とした山域として管理し、必要以上の整備は行わない。

⑦知西別岳及びその周辺地域

（人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を探る）

羅臼湖入口へのアクセス方法を検討できれば、残雪期のすばらしいフィールドになり得る。根室海峡にめがけて滑り下る知西別岳から湯ノ沢までのロングダウンヒルコースは感動もの。

⑧先端部地域沿岸海域

（シャチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流水が創り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる）

ウトロ～知床岬に続く絶壁と大風景、海岸で見ることができるヒグマや猛禽類、海鳥など野生との出会いの濃さは知床ならではの。豊穡の海、根室海峡はシャチやクジラ、イルカなど大型海産哺乳類との感動の出会いの場。大型猛禽、トド、アザラシ類を対象とする冬期の観光船事業も充実が望まれる。

⑨半島基部 斜里岳・海別岳山麓

（雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ）

斜里平野から周辺の山間野山麓部については、人気の観光地である富良野盆地周辺に比して勝るとも劣らない美しい風景を有している。また、峯浜地区の広大な牧草地とはるかに望む根室海峡・国後島の風景も実は大きな潜在性を有している。しかし、そこに欠けているのは来訪者をもてなす仕組みや人の存在、そして魅力的な「食」である。両地域で生産される畑作物や畜産物、そして知床ならではの海の幸を洒落た形で提供できる宿泊施設・レストラン等を展開し、知床の観光の新たな分野を切り開く。乗馬やスノーモービルのツーリングコースの設定など、国立公園内では難しいアクティビティの展開も可能だろう。